

初任期教員の育成プログラム開発 および 支援システム構築に関する総合的研究

もくじ

研究の概要	和井田節子(共栄大学)	1
第1部 初任期教員の現状と課題		
若手教員の自律的成長の為に - 多様な学習機会の創出と効果的活用 -	石原 陽子(プール学院大学)	7
高等学校の初任期教員育成に関する基礎研究 -A県での事例調査を手がかりに-	川口 有美子(鳥取環境大学)	30
授業に関するコミュニケーションを通じた教師の学習に関する予備調査の検討 -高等学校における授業観察と担当者へのアンケートをもとに-	鈴木 瞬(環太平洋大学)	44
第2部 プログラム開発と実践の検討		
特別支援学校高等部の初任期教師の育成における現状と課題	鈴木 敏成(東京都立七尾特別支援学校)	54
若手教師育成支援のための校内体制の構築と試験的実施 -特別支援学校における取り組みから-	鈴木 敏成(東京都立七尾特別支援学校)	62
初任期教員対象の授業力向上支援プログラムの研究開発 -大学と教育委員会の協働の試み-	高旗浩志(岡山大学)	81
第3部 行政・制度・国際比較		
A県の取り組みにみる若手教員育成支援の現状と課題	内山 絵美子(小田原短期大学)	97
教育公務員特例法の研修規定に関する研究 -教育公務員特例法の立法過程から研修規定に示されているものを探る-	大西 圭介(筑波大学大学院生)	109
教員の資質向上に関する国際動向 -中国における教員研修の現状と課題-		129
特集 教師教育研究の今日的課題を考える (日本教師教育学会年報第24号)		
若い教師の現状が教師教育研究に提起するもの	和井田節子(共栄大学)	141

研究の概要

和井田 節子

1. 研究の目的と研究対象

本研究の目的は、初任期教員の成長支援の観点から、公立小・中・高等学校・特別支援学校の初任期教員および初任期教員の成長支援システムの検討を行うことにある。

本研究における「初任期教員」とは初任から 5 年程度までの教員を指す。一般的には、初任期教員は、「若い教員」と表現されるが、最近では教員採用選考試験の受験者資格に年齢制限がない自治体も増えており、また講師を数年経てから採用される者が多い地域もあり、新採用の教員がかならずしも若いとは限らないからである。なお、通常、採用 1 年目の教員を「新任教員」または「初任者」、新任教員のうち大学を卒業後すぐの採用で講師や他職種等の経験をしていない者を「新採教員」、2 年目以降 5 年目程度の初任期教員を「若手教員」と呼ばれているが、本研究でも、その区分は、通例の呼称に従うこととする。

2. 本研究会のメンバー

名前	所属		職
和井田 節子	共栄大学	教育学部	教授
浜田 博文	筑波大学	人間総合科学研究科	教授
藤田 晃之	筑波大学	人間総合科学研究科	教授
高旗 浩志	岡山大学	教師教育開発センター	教授
石原 陽子	プール学院大学	国際文化学部	准教授
川口 有美子	鳥取環境大学	環境学部	准教授
鈴木 敏成	東京都立七生特別支援学校		指導教諭
内山 絵美子	緒田原短期大学	保育学科	助教
鈴木 瞬	環太平洋大学	次世代教育学部	助教
チャクル・ムラット	関西外語大学短期大学部		助教
張 揚	北海道大学	教育学研究院	助教
大西 圭介	筑波大学	人間総合科学研究科	博士課程院生

3. 本研究の構造

本研究の構造は、図1のようになる。メンバー各々の専門性を活かし、図中の部分を分担し、情報を共有するという方法で研究を行っている。

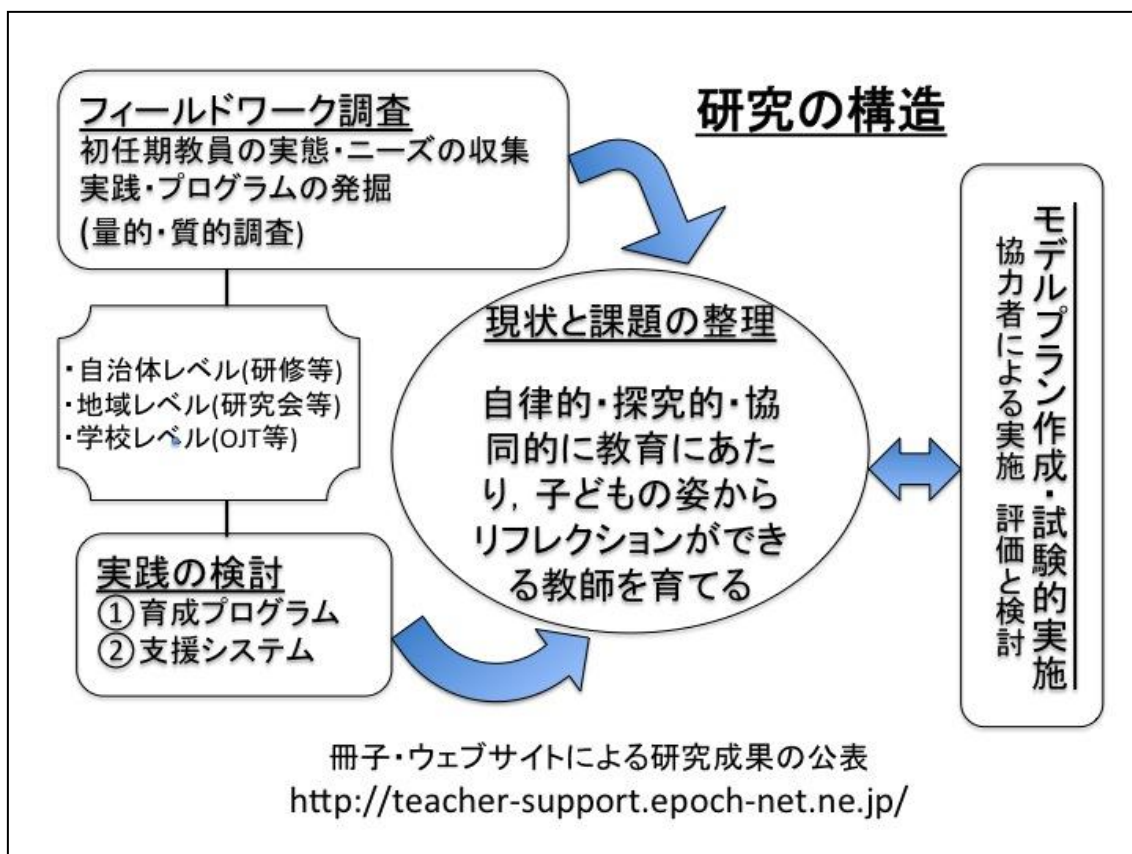


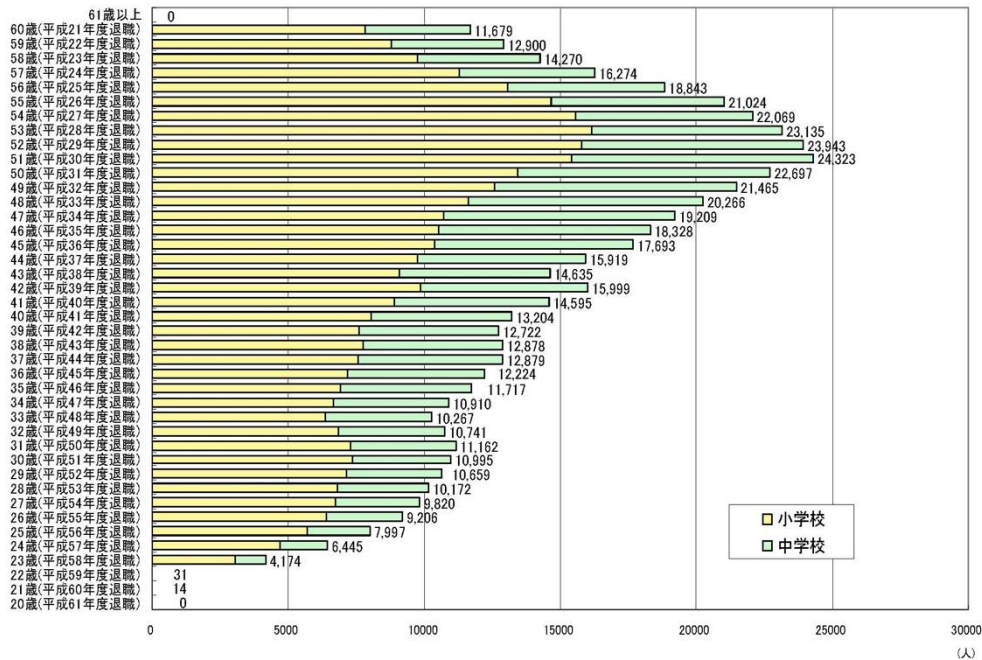
図1 本研究の構造

4. 初任期教員をとりまく環境

(1) 世代交代の急速な進行

現在、公立学校教員の平均年齢は40歳代半ばであり、さらに50歳代は全体の1/3を占めている。図1でも明らかなように、団塊の世代の大量退職に伴う大量採用は、都市部を中心にすでに始まっており、10年のうちには教員の半数以上が20～30代前半という学校もめずらしくなくなる。教員の急激な世代交代に伴い、若手教員が学校の中心として教育を担っていく学校がこの数年のうちに急増することになる。さらに、若手教員もベテラン教員と同様の技量が求められる社会風潮が強まっている。それに応じた育成プログラムと支援システムづくりが緊急の課題となっている。

公立小・中学校年齢別教員数(平成22年3月31日)



【小学校】 355,134人 44.5歳 【合計】 557,483人 44.4歳 文部科学省調べ
 【中学校】 202,349人 44.3歳

図2 公立小・中学校年齢別教員数(文科省 2010)

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo11/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2010/12/01/1299757_06.pdf

(2)初任期教員に求められるもの

知識基盤社会の到来によって、学校には基礎学力だけでなく、思考力・表現力・判断力の育成など、これまで以上に質の高い教育が求められるようになってきた。同時に、価値観の多様化やグローバル社会の到来等に伴い、多様な児童生徒の受け入れが求められている。つまり、これからの時代の教師は、質の高い教育と多様性の受け入れの両方が求められており、これまで以上に高度な知識と多様性に応じられる教育方法を身につけることが必要とされているのである。そのような中で「学び続ける教師」像が提起されている。

(1)に記述した大量退職・大量採用時代の中で、これらのベテラン教師でさえ難しいことを初任期教員が担っていかなければならない時代が近づいている。若手教員の育成は、現場のベテラン教員の実践知だけでなく、新しい時代に対応できる力を理論的実践的に身につける必要があるのである。これに関しては、国の政策としても、中教審答申等でもとりあげられるようになり、制度的な大転換がはかられようとしている。

(3)初任期全体を見据えた教員育成システムの必要性

新任教員への成長支援としては、初任者研修（以下、初任研と略紀）が制度化されているが、2年目以降の若手教員の育成については、各自治体にまかされている。そのため、多くの自治体ではそれぞれの勤務校内での育成を推進するとともに、5年経験者研修等の自治体レベルの研修を行い、成長支援を継続しようとしている。しかし、学校現場の多忙化とすでに始まっているベテラン教師の激減は、学校内だけで若手教員を育成することを困難にしている。「ベテラン教員は、学年主任や教務主任、首席といった役割を担い、校務分掌では委員会等の“長”を引き受け、教育課程や学校行事に対して責任を持って運営する立場にたっている。このような自分の仕事だけでも大変な上に、多くの若手教員を支援し、ミドルリーダーへと育てていく仕事も加わり、多忙を極めている。若手教員らに授業や生徒指導の技術を教え、保護者対応を一緒に考え、時には人間関係や結婚の相談にも乗っている。ベテラン教員は個人的に、また、組織的に若手教員と向き合っている」と大阪の小学校の宮前佳子教頭（51歳・当時）が述べる現状が進んでいるのである。（石上浩美他 シンポジウム「教員は学校現場でどのように働き、何を学んでいるのか」『日本教育心理学会総会発表論文集』p.195 2010）。このように、ベテラン教員による献身的な初任期教員の育成は、ベテラン教員の減少と仕事量の増加によって不可能になっていく。学校内だけでなく、自治体からの働きかけも含んだ支援プログラムと支援システムづくりが緊急の課題になっている。

5. 本研究のこれまでの歩み

(1)2009年4月～2010年3月 名古屋女子大学プロジェクト研究

「新任教員の適応および成長支援に関する総合的研究」

① 研究報告書

1. 和井田節子・亀山有希(2010.5) 「新任教員の適応および初任者研修に関する研究」『総合科学研究』第4巻 名古屋女子大学総合科学研究所 pp.68-84
2. 和井田節子・亀山有希(2011.5) 「新任教員の適応および初任者研修に関する研究」『総合科学研究』第5巻 名古屋女子大学総合科学研究所 pp.1-10

② 学会発表(日本教師教育学会)

1. 和井田節子・亀山有希(2009.10) 「公立小学校における新任教員の適応援助に関する研究：新任教員の抱える困難感の聞き取りおよび初任者研修プログラムから見える適応援助機能について」日本教師教育学会第19回研究大会要旨集 pp.48-49

(2) 2010年4月～2013年3月 科学研究費基盤研究(C) 22530885

「新任教員の適応および成長支援に関する総合的研究」

① 研究報告書

和井田節子・杉江修治・浜田博文・石原陽子・大橋保明・亀山有希・川田弘人
(2012.9)『新任教員の適応および成長支援に関する総合的研究』共栄大学教育学部学校臨床研究室 全95ページ

② 学会発表

1. 和井田節子・杉江修治(2010.9)

「公立学校における新任教員の適応援助に関する研究-新任教員の抱える困難感の聞き取りおよび初任者研修プログラムから見える適応援助機能について」日本教師教育学会第20回研究発表要旨集録 pp.138-139

2. 和井田節子(2010.8)「小学校における新任教員の適応援助に関する研究-初任者研修の適応援助機能に着目して」日本教育心理学会第52回総会発表論文集 p.599

3. 和井田節子・石原陽子・川田弘人・杉江修治・大橋保明・亀山有希・浜田博文(2011.9)「若い教師への成長支援に関する研究」日本教師教育学会第21回研究大会要旨集録 ラウンドテーブル p.33

4. 石原陽子・和井田節子(2012.8)「初任者の成長環境についての考察」日本教育学会第71回大会 「要旨収録」 pp.346-347

5. 和井田節子・石原陽子・川田弘人(2012.9)「新任教員の適応および成長支援に関する研究」日本教師教育学会第22回大会要旨収録 pp.88-89

③ 論文・著作等

1. 和井田節子(2010.6)「教師のメンタルヘルス」『月刊学校教育相談』ほんの森出版 pp.38-39

2. 石原陽子(2011.12)「教師の「実践的指導力」育成に関する考察：新任教師の属性に着目して」『プール学院大学紀要』第51号 プール学院大学 pp.203-216

3. 杉江修治・水谷茂監修 犬山市授業研究会著(2011.6)『すべての子どもの高まりを促す協同の学びの追求：犬山市授業研究会2010年度の成果』一粒書房 全192ページ

4. 杉江修治・水谷茂監修 犬山市城東小学校5年生教師グループ著(2011.11)『単元見通し学習への挑戦：犬山市授業研究会2010年度の成果』一粒書房 全130ページ

5. 大橋保明・亀山有希(2012.3)「東日本大震災被災地における初任者教員(第

一報) :いわき市と石巻市の事例から」『いわき明星大学人文学部研究紀要』
第 25 号 いわき明星大学 pp. 58-76

(3) 2013 年 4 月～2016 年 3 月 科学研究費基盤研究(C) 25381038

「若手教員の育成プログラム開発および支援システムに関する総合的研究」

① 研究報告書

本冊子。和井田節子・浜田博文・藤田晃之・石原陽子・高旗浩志・川口有美子・鈴木敏成・張揚・内山絵美子・鈴木瞬・チャクル・ムラット(2015.9)『初任期教員の育成プログラム開発および支援システム構築に関する総合的研究』共栄大学教育学部学校臨床研究室

② 学会発表

1. 和井田節子・高旗浩志(2013. 9)「若い教師の成長をどう支援していくか」
日本教師教育学会第 23 回研究大会要旨集録 ラウンドテーブル p. 27
2. 和井田節子・石原陽子・高旗浩志・藤原敬三(2014. 9)「若い教師の育成に関する総合的研究 その 1 -公立小中学校の初任期教員の育成における現状と課題」日本教師教育学会第 24 回大会「要旨収録」pp. 124-125
3. 川口有美子・鈴木敏成(2014. 9)「若い教師の育成に関する総合的研究 その 2 -公立高等学校・特別支援学校高等部の初任期教員の育成における現状と課題」日本教師教育学会第 24 回大会「要旨収録」pp. 126-127
4. 和井田節子・石原陽子 (2015. 9)「初任期教員の成長支援(1) -自律的で協同的な教師の育成-」日本教師教育学会第 25 回大会要旨収録
5. 鈴木敏成 (2015. 9)「初任期教員の成長支援(2) 若手教師の成長を支える校内体制づくり -特別支援学校における試行的実施-」日本教師教育学会第 25 回大会要旨収録

(4) ウェブサイト

「若い教師を支援する会」

<http://teacher-support.epoch-net.ne.jp/>